## リスク対策の根源

ヒトは煩悩の固まりとよく言われます。どこか遠くに旅行へ行きたい、おいしいものを食べたい、今日は疲れたから 1 時間遅れて出社したい、等々さまざまな自分との会話をそれぞれのタイミングで行なっていることに気付くはずです。

しかし、こういった考えをする人が 100 人、1000 人、1 万人と増えていくとどうなるでしょうか？言い換えるならば、自分の欲望の向くまま、したいことだけをするヒトだけが増殖していく、ということです。

欲望、と言われる言葉も非常に奥深いもので、“欲の望むまま”に行動するということです。私利私欲、という言葉がこういう時によく引き合いに出されます。私利私欲の固まりで大勢の人が行動をすると、どうなるでしょうか？極端に言います。日本中 1 億 2000 万人の人が私利私欲むき出しで行動をするとどうなるでしょうか？現実的にあり得る・あり得ない、という議論はさて置きです。

おそらくはあらゆる所で争いが起きるでしょう。しかし、現実には起きていません。なぜですか？そこが人間のヒトたる所以があるからです。原始的には動物的な本能と言えるかもしれません。ヒトは他の生物にはない高度な伝達手段を持っています。声、身ぶり手ぶり、表情、言語、書く、あらゆる手段を使って、相手と意思疎通します。

意思疎通を行なう、ということは少なくとも何かしら、人とヒトとの関係性が発生しています。希薄な関係性もあれば、中身の伴った濃い関係性もあり、その性質は様々です。このように意思疎通を行なうことで、何が生まれるか？それは、“調整能力”です。相手に対して欲求ではなく、要求という形に変容します。必要だから求める、それが要求です。

世の中には思いも依らない突発事項が起き、その都度適切に対処していかなければ、ヒトは人生を全うできません。ある意味、試練・修行と言えるかもしれません。それをヒトはリスク対策と称して手順に則り、きっちりマニュアル通り準備して危機発生時にはそれを頼りに挑みます。

しかし、本来ヒトはマニュアル通り動くことを前提として生まれてきたのでしょうか？マニュアルというのはある意味、原理原則御作法的な物であり、行動基準として最低限“要求”されるものだからです。ルール、モラル、色々な言い方はありますが、いわゆる調整した結果、バランスのとれた“決まり事（要求事項）”に過ぎません。

脅威の中身、レベル、範囲は常に普遍的で、色々な事象の組み合わせで襲い掛かる突拍子もないリスク（発生可能性）、それを想定外、という一言で片づける人を良く見かけます。この一言で片づける人こそ、他責極まりありません。こういう人たちの撲滅こそ、根源的なリスク対策と考えます。発生したリスク、自分に受けたリスクとして毅然と対処していく“主体性”のあるリスク対策、これこそ普遍的なリスクに対して、効果的な対策に繋がっていくのではないでしょうか。

まずはこの姿勢、原点は意思疎通、相手との調整能力、欲求ではなく要求ベースとする、

等々、キーワードは如何なく盛り込みました。リスク対策の根源をもう一度まとめます。

「数々の要求事項を、人ときっちり主体的に向き合い、調整できる能力を持った人」の育成、これに尽きます。「人間関係能力を持った人」の育成こそリスク対策の根源です。なぜなら、人のいない世界の中で、リスクをリスクとして認識できる対象はありえないから。

ヒューマインド　乙守